ザリガニとのかかわり 4～5歳児

エピソード1 「今日もザリガニを捕まえようぜ」5～6月 5歳児

5月の始めに保護者からザリガニを譲り受けて池に放す。

M さんは池にスコップを持ってきてザリガニを追うが、**「だめだ、逃げちゃう!ザリガニってこんなに速く泳ぐの?」**と、ザリガニの動きに驚く。

M さんは**ザリガニの動きの傾向に気付き、後ろに逃げるから後ろから捕まえようとする**が、30分程して「だめだ。**後ろからやってもスコップを避けて逃げちゃう**」と言う。

O さんは「**後ろに逃げるって、何で後ろに何にもいないってわかるんだろう」と疑問を持つ。**

M さんが**「S くん、僕が前から行くから後ろで捕まえて」と声をかけると、傍の K さんが「作戦だね」と目を輝かせる。**

M さんと 2 人で挟むように追うが、ザリガニはすり抜けていくので、S さんが、**「だめだ!俺が手で行くよ」**と言い、友達の「挟まれるぞ」の声を気にせずに**ザリガニを後ろから鷲掴みにする。**すると、**ザリガニが S さんの手を挟み、**周りの子どもが驚いて声をあげた。Sさんは焦らず、**挟まれている手を静かに池につけると、ザリガニはハサミを開いて静かに池に戻っていく。**

Sさんが「痛てぇ」と笑い、**「ザリガニは水に帰りたいだけだから」と冷静に言い**、ザリガニを探す。

考 察

飼育箱での飼育では見られない、本来の力を発揮するザリガニを前に悪戦苦闘し、簡単に捕まらないからこそ、**じっくり観察し、動きの傾向を見出し、**作戦を立て、**捕獲に向け友達と協力する**姿が生まれた。意欲的に関わる S さんは、挟まれても**ザリガニの立場に立って考え、言動し、**ザリガニを**水に戻す。**

さがみ愛育会 幼保連携型認定こども園 愛の園ふちのべこども園（神奈川県）

エピソード 2 「どうなるかな」～好奇心と死について～ 5～7月 4･5歳児

ザリガニを捕まえる子どもが増え、**捕まえると観察し、枝を掴ませるなどいろいろな実験をしている。**

場面① 園庭で食紅での色水遊びをした日、M さんや K さんも色水を楽しんでから、ザリガニを捕まえ始めた。M さんがザリガニを捕まえてケースに入れようとした時、K さんが遊んでいた**赤い色水が入ったケースを持ち、「ここに入れよう」と提案**して入れると**「なんかかっこいい」と言った。青や緑の色水にも入れ、「緑より赤の方がいい」「青は不思議な感じだね」と色ごとに印象を言葉にしていく。**

場面② W さんはザリガニを芝に降ろして**観察している。「ザリガニって水の外でも死なない」と気付き、**ハッとした顔をして**「水の中みたいに後ろに跳ぶかな?」と前から枝で突く。「ハサミを上げるけど跳ばないね」と言う。**他児も**「水の中の方が強いね」「地面より水の方が好きなんじゃない?」**と話している。

場面③ ザリガニが弱ってくると、K さんが「池に戻しておけば?」と言い、「元気になれよ」池に戻す。しかし、ザリガニは死んで横たわっている。保育者は、**「死んじゃってるのかな?」と責めない口調で尋ねる。M さんが「時々動くんだよね…」と答え、しゃがみ込んでザリガニを見つめ、**「ほら、今手が動いた」と言う。他の子どもたちも加わり、**「寝てるだけかも」「次の日、見たらいなかったから生きてたんだよ」とそれぞれ自分の体験を話す。**

場面④ 体が白く濁り、崩れ始めた死体を見て**「これは完全に死んでるね」**と O さんが言い、他の子どもも同意する。そこで保育者が先ほど池に戻した死んだばかりのザリガニを指さし、「これは?」と聞くと、**「わからない。生き返るかも」**と答えた。

場面⑤ ザリガニの数は減っていった。保育者はザリガニの命について何を伝えるか悩む中で、サークルタイム（15 頁参照）で話し合うことにした。「こんなに?**かわいそう**」と言う子ども。**ザリガニに関心のなかった Q さんであったが「触らない方がいいんじゃない?」と言う。**ザリガニが好きな子どもは**「でも捕まえたり、触ったりしたい」**と答える。**「死んでもいいの?」**と尋ねられ、M さんは**「毎日触られたら嫌かも。疲れて弱っちゃうから休ませてあげる」「優しく触る」**と言う。S さんや K さんも**「ザリガニの気持ちを考えてあげる」と、どうしたら死なないかということを考えていた。**

場面⑥ W さんが「見ろ!**ハサミが小さいぞ**」と捕まえたザリガニを見せると、**「ザリガニはハサミが取れたらまた生えてくるんだよ」**と K さんと二人で興奮している。それを見た S さんが**「ハサミを治してるところなら、返してやるか?ケガの時に触られたら痛いだろ?」**と言う。W さんは、**自分も腕の怪我をしたことを思い出して話しながら、ザリガニを池に戻す。**

考 察

ザリガニと日常的に触れ合うことで、捕まえる喜びだけではなく、**子どもたちの中で生まれる疑問や発想を機に、思い思いに試行するようになった。**そして、**観察して特徴に気付き、対象を学ぶ協働的な体験**が積み上げられていった。一方で、**ザリガニの変容や死に対して、自分たちの関わりとの因果関係を考える**など、**自分事として生き物の命に向き合った。**対話を重ねている子どもたちは、この共通の問題でも互いのいろいろな考えに触れ、**他者の考えを尊重する体験**をしている。さらに、**対象（ザリガニ）に自分を重ねて理解しようとする考えや思いやりの心をもち、言動する体験につながった。**